

## 故 井上晴丸先生追悼の言葉

経済学部長 関 弥三郎

井上晴丸先生は昭和四十八年十月五日午後十時四十五分急性心臓麻痺のために逝去されました。十月五日当日には井上先生は常とお変わりなく大学院のゼミナールで研究指導をしておられたのであり、その夜に不帰の人となり幽明境を異にするとは誰が予想し得たでありましょうか。あまりの突然のことにして経済学部、否立命館大学全体の教職員、学生は啞然としたのであり、まことに痛恨の極みであります。

井上先生は山口県の御出身でありますて、昭和九年東京帝国大学農学部を御卒業後農林省にお入りになり農林行政に従事して来られましたが、その傍ら経済評論家として活躍を続けられました。昭和二十四年に農林省を退職され以後は日本農業発達史調査委員会を組織して専ら農業経済の研究に没頭され、多くの優れた研究業績を残されましたことは周知のことろであります。

昭和三十四年四月に本学部の教授としてお迎えして以来井上先生は農業経済学、経済政策、一般教育の経済学を担当され、その気さくなお人柄と生々とした熱っぽい講義とに多くの学生の人気を集められ、敬愛の的であります。また昭和三十八年度と四十年度の二回にわたって経済学部長を務められ、翌四十一年度には人文科学研究所長、更に四十五、四十六年度には図書館長と要職を歴任され、学校行政の面でも多くの功績を残されたので

あります。その間四十一年末に心筋梗塞のため死線をさ迷われ九死に一生を得られて以来健康に注意して来られたのですが、今回の御不幸を見るに至ったのであります。

井上先生は学問的に優れた業績を挙げられただけではなく、また芸術家的資質をも具えておられ油絵、俳句をよくされました。特に油絵は飯より好きだとのことであり、見事な作品を残しておられます。先生の形見として妙心寺を描いた一枚が御遺族より経済学部に寄贈されました。学部長室に掲げて永く井上先生をしのぶよすがになることと思います。また井上先生は冷厳な科学者であると同時に心温い人情家でもあり、周囲の人々特に弱い立場の人に非常に気を配られる方であります。これが先生のひょうきんな氣質と相俟つて井上先生が誰にでも敬愛される理由であると思います。

井上先生は建林正喜先生と共に四十九年三月に定年退職され、大阪経済法科大学に就任される予定でありますて、新しい生活のプランを準備しておられたと聞いています。もちまえの反骨精神から好んで逆境の中に生きてこられた井上先生が、余生を楽しく過さんと念願しておられたのもやはかなわぬ夢となり、まことにお氣の毒に思う次第です。

私達経済学部の教職員、学生一同はここに井上先生の御生前における功績をたたえると共に、先生の御遺志を受け継ぎ更に発展させて行くことが、先生の残された偉大な業績に応える唯一の道であると信ずることを申し上げまして、追悼の言葉を終ります。

井上晴丸先生、どうか安らかにお眠りください。

一九七四年二月